

一橋論叢第五十二卷総目次

論 説

メロヴィング時代のいわゆる「聖界貴族」について……………	今野 国雄	一	一	通頁
グーツヘルシャフトの形成とルター派の浸透(一)……………	阿部 謹也	一	三	一頁
——東ドイツ宗教改革の社会的背景——				
年次有給休暇権の法的性質について……………	蓼 沼 謙 一	二	一	101
曳船列一体理論の再検討……………	原 茂 太 一	二	二〇	103
グーツヘルシャフトの形成とルター派の浸透(二)……………	阿部 謹也	二	三	105
——東ドイツ宗教改革の社会的背景——				
〈自負と偏見〉と〈第一印象〉……………	海老池 俊治	三	一	109
——イギリス小説研究試論——				
悲劇的アイロニー……………	富 原 芳 彰	三	五	113
ホイットマン的伝統とエリオットの伝統……………	増谷 外世 嗣	三	三	115
ミルの詩論……………	山 田 泰 司	三	五	117
J・D・サルランジャー試論……………	齋 藤 忠 利	三	六	119

長期費用と短期費用……………	久武雅夫	四	一	三九
Warelehre について……………	北原三郎	四	七	三壹
——クッツェルニック教授の商品学を中心として——				
低価主義と期間損益計算……………	飯野利夫	四	完	三七
——損益計算的低価主義の素描——				
商品学における基礎的諸問題……………	橋本仁藏	四	毛	三五
国際流動性とキー・カレンシー……………	吉野昌甫	五	一	四九
日本経済のマクロ的考察……………	荒憲治郎	五	四	四三
自動車工業における下請組織の最近の変化……………	外池正治	五	三	四六
わが国の経済計画と企業行動……………	今井賢一	五	五	四八
わが国工業化の二部門パターン……………	塩野谷祐一	五	空	五〇
農家人口移動の推計と分析……………	南亮進	五	金	五三
サイバネティックスの世界観と思想性……………	杉田元宜	六	一	五七
地域開発の工業立地論……………	青木外志夫	六	二	五六
——経済地理学的試論——				
トーマス・マン論……………	森川俊夫	六	四	六八
研究ノート				
プール代数での新しい消去法について……………	山田欽一	一	四	四
抵触法と外人法との関係再考……………	塚場準一	一	四	四

——動態的抵触法理論への出発点として——				
モンテーニュにおける「Présomption」について……………	高橋誠	一	三	三
年次損益計算の計算対象……………	大島美留	一	七	七
——シユマールレンバツハ「ダイナミッシェ・ピランツ」 における年次利益の概念——				
『法學士會』設立の経過とその活動……………	沼正也	二	五	一五
マックス・ヴェーバーにおける世界権力政策と議会改革論……………	山田高生	二	五	一五
社会心理学におけるパーソナリティー理論……………	折橋徹彦	二	五	一五
——社会心理学史研究——				
アンドルー・マーヴェル作「ホラス風オード」の 解釈をめぐって……………	石井正之助	三	五	一六
デフォー研究の意義と方法について……………	坂井晴彦	三	五	一六
命令文の構造……………	長谷川欣佑	三	一〇	二六
文学史研究の方法的反省のための一考察(1)……………	藤井一行	四	三	三〇
——ソ連における文学史学の新動向について——				
デイドロにおける技術思想・再論……………	竹村孝雄	四	八	三六
期待可能性についての一考察……………	庭山英雄	四	八	四〇
——社会的相当性との関連において——				
モンテーニュにおける現実認識と思想の発展……………	高橋誠	四	九	四三
租税弾力性の一計測……………	石弘光	五	二五	五五

ロシアの聖職者……………	佐々木 彰	六	六	六四
メルヒオール フォン オッセの半生……………	勝田 有恒	六	六	六三〇
——近世ドイツ法學識者の横顔——				
文学史研究の方法的反省のための一考察(2)……………	藤井 一行	六	六	六四〇
——ソ連における文学史学の新動向について——				
初期マルクスとキリスト教(一)……………	富沢 賢治	六	六	六四六
——少年マルクスとキリスト教——				
学界消息				
ロスコー・パウンド逝く……………	大平 善梧	四	四	一〇三
「経済表」二百年記念刊行物二種……………	坂田 太郎	六	六	一〇八
国際地理学会議(ロンドン・一九六四年)の概況……………	石田 龍次郎	六	六	一〇六
彙報				
博士論文要旨及び審査要旨(木村増三)……………		四	四	一三三
博士論文要旨及び審査要旨(杉山忠平)(高山 晟)……………		六	六	一三四
書評				
大河内暁男著『近代イギリス経済史研究』……………	米川 伸一	一	一	一八
Raymond A. Bauer (ed), Some Views on Soviet				一八

Psychology, Washington, D. C., 1962.....	中村 恵一	一	六	七
E. Ginsberg & H. Berman, The American Worker in the Twentieth Century —— A History through Autobiographies ——				
N. Y., 1963	長沼 秀世	一	六	七
Arthur S. Goldberger, Econometric Theory. Wiley, New York, 1964	磯野 修	二	六	七
M.E.・J.・スミットマン著『線型計画計算』.....	別府 祐弘	二	六	七
Winifred P. Lehmann: Historical Linguistics: an Introduction, New York, 1963	山川 喜久男	三	一〇	一〇
MacDonald Emslie: Goldsmith: The Vicar of Wakefield, London, 1963.....	山本 和平	三	一五	一三
種口午郎著『銀行理論』.....	速水 保	五	二四	一三
B・A・ルイバコフ『古代ロシア・説話・フイリーナ・ 年代記』.....	中村 喜和	六	一七	一三
——フイリーナ研究における新「歴史学派」の こころみ——				